

天となった。

当日の気温分布を見ると、全体として東側の行橋から周防灘方面の気温が高く、勝山町西部の山地にかけて気温が漸減する傾向が認められた。夏の午後の気温の上昇する時間帯であるが、海風うみかぜに運ばれるように高温域が内陸へと侵入してきている。しかし、観音山塊背後の長川から岩熊周辺の低地と菩提付近には二八℃の等温線で囲まれた高温域が明瞭に認められた。

勝山町西部は、大久保付近の丘陵から観音山塊に囲まれた小盆地を形成しており、盆地中心部特有の昼の高温域が現れている。また、北西部山地は高度の影響と森林の効果で盆地内部より二〜三℃気温が低い。

気温分布から見ると、勝山町東部は周防灘まで一続きの気塊と見なすことができるが、観音山塊から大久保付近の丘陵を境に、西部は盆地気候の性格を有している。両者の気温差は真夏の日中で一度程度であるが、冬の最低気温では西部が低温、東部がやや高くなり、その差は夏より大きいと予想される。町内では観音山が微気候の境界としての役割を果たしている。なお、降水量は西部の山沿いで大きくなる傾向にある。

二 気候景観としてのため池

勝山町のため池分布

勝山町の農業は水田稲作が中心である。長峡川や初代川（下田川）沿いの

沖積低地一帯に水田地帯が広がるほか、黒田や大久保周辺の低位段丘や阿蘇四火碎流台地などの低い台地も水田が広がっている。通常は畑地として利用されることの多い台地で水田耕作を可能にしているのは、灌漑用水を確保することが必要である。

このため勝山町にはおよそ七〇箇所のため池が設置され、ため池密度は周辺市町村に比べても大きなものである。これらのため池は田植え時期の水の確保や渇水期の灌漑用水としての機能を果たしており、灌漑用水路や深井戸などによる灌漑の整備された現在でも、補助的機能をなお有している。勝山町の水田のため池の組み合わせは、西南日本一帯で降水量の年変化の比較的大きい地域の典型的な気候景観として注目される。

勝山町の主なため池の分布を図1—8 aに示す。ため池は土石流の発生するような山間部にはほとんど分布せず、山地から低地へと移行する扇状地部分より下流域に位置する。また長峡川や下田川などの流量の多い主要な河川沿岸では、井堰などの灌漑が発達するためため池は分布しない。勝山町の場合には、ため池の造られた場所は地形条件から次のように分けられた。

①丘陵地の間の谷底低地を堰き止めたため池（池田の加廊戸池・大久保の大古野池など）。②丘陵状の地形を持つ中段段丘の背後の谷を堰き止めたため池（中黒田の二又池や五位ノ木池など）。③阿蘇四火碎流台地や低位段丘面を浅く刻む谷を堰き止めたため池（黒田の南ヶ迫池や上久保の原田上池など）。④山地

末端部の小谷を堰き止めたため池（上野の小原池や御手水の蒲生池など）。⑤台地の上に堤を巡らして池を造ったもの（上久保の原田新池など）。勝山町は小規模な丘陵や台地が町内各所に分布するため、ため池を造る適地も多く、ため池を確保できた

- (1) 若名田池、2 大池、3 大迫池、4 長迫池、5 加藤戸池、6 宮ノ谷前池、7 勝山池、8 小堤池、9 五别当池、10 南ヶ迫池、11 二又池、12 古池、13 五位ノ木池、14 北ヶ迫池、15 安藤寺池、16 万吉原池、17 大池、18 貝持池、19 新道寺池、20 亀田池、21 新池、22 小原池、23 中尾池、24 ドウテ池、25 舟山池、26 堂ヶ迫池、27 研場池、28 蒲生池、29 小古野池、30 大古野池、31 中尾池、32 原田上池、33 原田中池、34 塚田池、35 原田新池、36 加治久池、37 雁俣池、38 石ヶ坪上池、39 石ヶ坪中池、40 石ヶ坪下池、41 小松池、42 綿打池、43 広谷池、44 宮ノ谷池、45 新池)

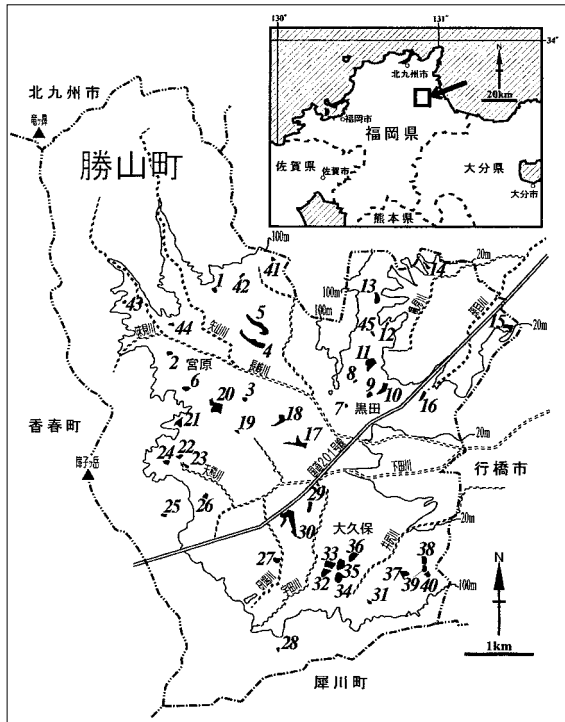


図1—8 a 勝山町のため池分布図

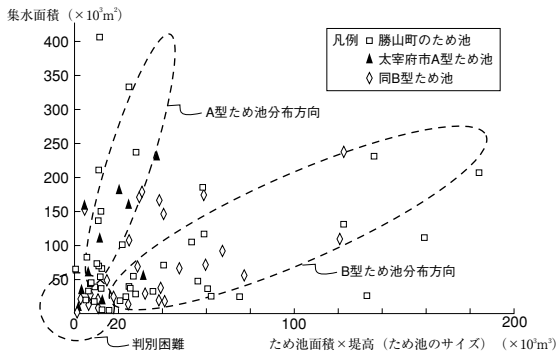


図1—8 b 勝山町のため池と太宰府市のため池の集水面積とサイズの比較

ことで台地でも水田開発が行われたものであろう。
ため池のサイズ ため池のサイズ（ため池の面積×堤高・貯と**集水域** 水量に比例した値）とため池の背後の集水面積（流域面積・降雨があればため池に水が流入する範囲の土地面積）とを比較して、両者の関係を図1—8 bに示した。この図には福岡県東部で同じ気候区にある太宰府市のため池の例も加えている。勝山町のため池と太宰府市のため池のサイズと集水面積との関係は良く似ている。すなわち、ため池のサイズの割には集水面積の大きいA型ため池と、これとは逆にため池のサイズの割には集水面積の小さいB型ため池の二種類のため池に分けられ、中間のため池は小規模のものしか出現しない傾向にある。

勝山町のため池は太宰府市のそれより集水面積もサイズも大きめのものが多いが、A型とB型の分離は太宰府市より明瞭であった。
 勝山町で集水域の面積が最大のドウテ池はA型ため池である。この池は、障

子ヶ岳山麓の上野地区にあり、巧みに土石流の直撃を避けるように配置され、また万一土手が崩壊しても流出する水量は小さくなるよう小さなサイズで造られていた。A型ため池は流域河川水の流入で十分に貯水でき、むしろ豪雨時の土石流による二次的被害を防ぐことを念頭に設置されている。このタイプのため池は山地から平地への出口に設置されているものが多い。これに対してB型ため池は、土砂災害の危険性が少なく安全でため池サイズも大きくなる場所に位置する。勝山町でサイズ最大のため池は、大久保の大古野池で丘陵に囲まれた小流域から集水している。B型ため池の一部は、背後の集水域以外の河川から水路を利用して水を引き込む例も少なくない。このようなため池には、丘陵地の谷を堰き止めたものや台地上の浅谷を利用して造られたものが多い。

ため池周辺の景観

ため池は築造された後はその位置が変化することはほとんどなく、百年以上にかたつて景観を保存し続けているものが少なくない。一方ため池の周囲の土地利用景観は今後の産業スタイルの変化によって変化していく可能性のあるものである。ため池の周囲には現在どのような景観が見られるか、その景観の組み合わせはどのようなになっているかを解明する目的で、勝山町のため池景観分布図を作成した(図1-8c)。この図に示したI型は、ため池の周囲の七割以上を同一の土地利用で占めている景観、II型は、

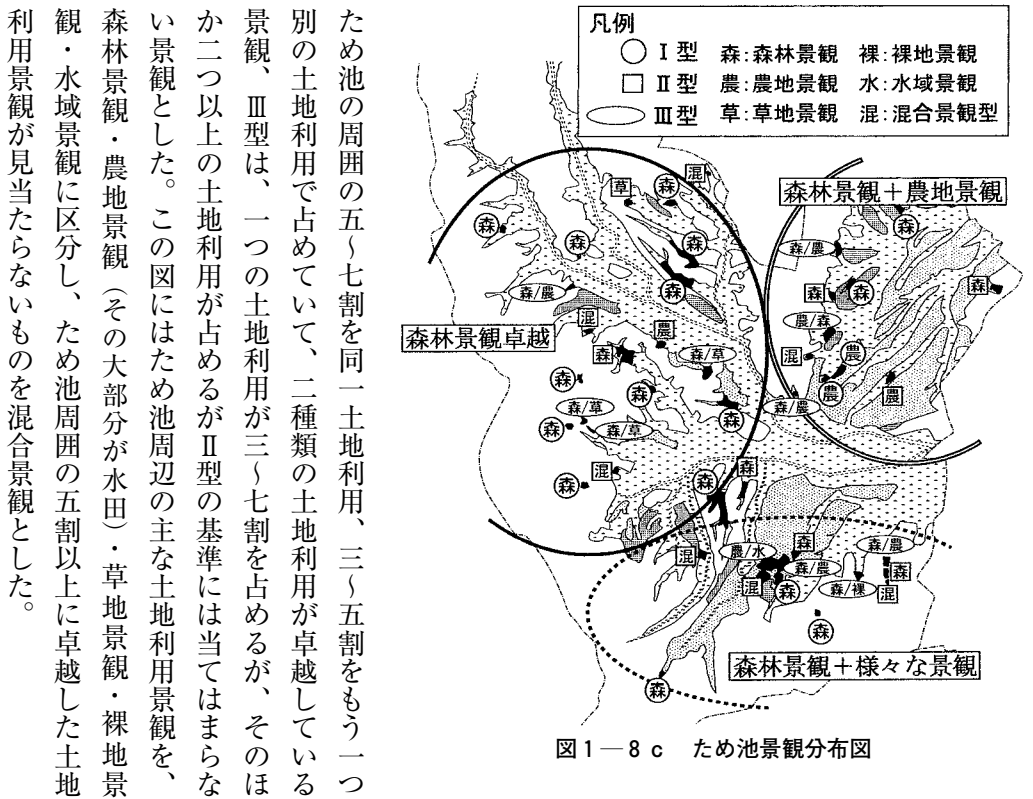


図1-8c ため池景観分布図

ため池の周囲の五〜七割を同一土地利用、三〜五割をもう一つの土地利用で占めていて、二種類の土地利用が卓越している景観、III型は、一つの土地利用が三〜七割を占めるが、そのほか二つ以上の土地利用が占めるがII型の基準には当てはまらない景観とした。この図にはため池周辺の主な土地利用景観を、森林景観・農地景観(その大部分が水田)・草地景観・裸地景観・水域景観に区分し、ため池周囲の五割以上に卓越した土地利用景観が見当たらないものを混合景観とした。

以上の区分を行って、勝山町の現在のため池周囲の景観をまとめると、町の北西部を占める長峡川沿岸の諫山地区や下田川沿岸の低地は森林景観が七割以上を占めるⅠ型景観が主体であることが分かる。町の東部の黒田地区は森林景観が卓越するものと農地景観が卓越するものと混在し、森林と農地から構成されるⅡ型景観の占める割合も大きい。南部の久保地区は、南部の山麓部を中心に森林景観の卓越する地域もあるが、丘陵地や低位段丘などの地形が複雑に配置している。このため森林・農地・水域（ため池）・裸地（ゴルフ場）などがため池の周囲に複雑に入り組んでいて、勝山町の中では多様な土地利用景観が展開しつつある。

このようなため池周辺の土地利用景観の分布から、今後は南部の久保周辺から規模の大きい土地利用景観の変化が生じ景観の複雑化が更に進行する可能性があり、既にゴルフ場の開発もこの地域から始められた。なお、東部の黒田地区は国道二〇一号線の改良に伴って、国道沿いに都市化が進行すると予想されるが、この地域の農地の生産力は大きく、水田を中心とした農地と観音山塊を中心とした森林を中心とするため池周囲の景観は当面維持されるものと判断される。また、北西部の諫山地区は、森林単一景観を中心としたため池景観が主たるものである。この地域は当面現状の景観が継続すると考えられるが、農業用水利としてのため池の重要性が低下した場合にはため池そ

のものが失われる可能性もある。このように農業と結びついた気候景観としてのため池は、将来にも継続される可能性が大きい。今後の利用継続には水域空間としての景観価値などの要素も考慮される必要がある。

第四節 勝山町の景観の変遷

一 地形図で見た勝山町

変化の小さい勝山町

勝山町は昭和三十年（一九五五）に三村合併により町制施行し五〇年を経ているが、その景観や土地利用の変化を少なくとどめることのできた地域である。三村合併直前の昭和三十年一月三十日国土地理院発行の五万分の一の地形図「行橋」図幅（昭和二十五年応急修正版）（図1-9）と、最近の平成九年（一九九七）六月一日発行の五万分の一の地形図「行橋」図幅（平成七年修正測量）（図1-10）とを比較して、地形図から読み取れる勝山町の変化についてまとめてみよう。

図1-9と図1-10を比較して見ると、見掛けの印象がかなり違っていることが分かる。図1-9は測量を地上で実測して作図したものであり、測量地点との間は手書きで描いた地図図である。図1-10は地上の測量結果にもとづいて航空写真を立体